

市政を問う

一般質問

6月定例会における市政に関する一般質問は、6月30日、7月1日、2日に行われ、10人の議員が質問に立ちました。各議員の質問と市長を始めとする当局の答弁要旨は次のとおりです。
(質問議員が執筆し、掲載順序は質問順です)

※質問、答弁の詳細は9月1日頃から半田図書館・亀崎図書館等に配置された会議録でご覧いただけます。
また、市議会ホームページにも掲載します。
※その他、議員ごとにYouTubeへ直接アクセスできるQRコードを掲載しています。

新市長の半田市政への考えを問う



継新・半田市民の会
加藤美幸

問 子育て環境知多半島No.1を目指す具体的な施策を伺います。

答 仕事と子育て両立のサポート体制充実に取組み、保育園等への入園のしやすさ、病児保育の充実、放課後児童クラブの学校内設置、職場での子育てに対する理解の促進にも取組みます。

問 子どもを取り巻く諸問題や、子どもの居場所をどのように考えていますか。

答 いじめ、不登校、児童虐待、ひとり親家庭の増加による孤立や貧困など、問題は多様化、複雑化しています。それに直面した子どもに家や学校以外で、食事・学習・遊び等を行える居場所を検討します。そして子どもの意欲や自信、自己肯定感の回復や向上を支援します。

問 小学校の教科担任制リットには、どのようなメリットがありますか。
答 専門性の高い指導で、「わかったできた」

楽しい」授業となります。また、授業準備の効率化や負担軽減で教員が子どもに向き合う時間が増えます。

問 女性管理職登用を加速させる具体的な取組みを伺います。

答 一般行政管理職の女性割合を現在の10.7%から、令和7年には10%を目標とし、働きやすい職場づくり、キャリアが蓄積され自分の能力に自信が持てるように研修等で意識づけを行います。

問 次期半田市男女共同参画推進計画が成果を出せるよう本気で取組むべきと考えますが、見解を伺います。

答 性別による地位の不平等感や無意識の偏見などの課題を踏まえ、女性活躍の推進、男女共同参画の視点による防災対応、性的少数者への理解促進を計画に盛り込みます。庁内連携を強化するため新たに組織を立ち上げ、全庁的に取組み、多様性が当たり前の共生社会を目指します。市民には、施策内容や進捗状況をわかりやすく公表します。



コロナ禍で表面化した女性の問題



公明党
坂井美穂

問 コロナ禍で表面化した「生理的貧困」をどのように捉えていますか。

答 経済的困窮のみならず、育児放棄、性の知識不足などで生理用品を利用できない環境にあることと認識しています。

問 困っている女性を取り残さないために、生理用品を希望する人に配布し、相談窓口の案内を同封するなどして、支援の場を繋げることが必要と考えますが、いかがですか。

答 生理用品の提供を通じて支援に繋げる取組みを進めます。

問 小中学校の子どもたちが学校で突然生理になってしまった時にどのような対応をしていますか。

答 養護教諭に相談し、保健室に備えてある生理用品を利用しています。

問 小中学校のトイレに生理用品を備えることで、児童・生徒の健

康・衛生環境を守ることができ、安心して学校生活を過ごせるようになると考えますが、いかがですか。

答 保健室だけに備えることと比べ、より心理的負担が少ない有効な手段です。女子トイレに生理用品を備える取組みを進めます。

問 支援は継続して行う必要があると思いますが、いかがですか。

答 継続的な支援体制は必要です。

問 困っている人が声を上げられる環境づくりについて、どのように考えていますか。

答 既存の各種相談のさらなる連携強化を図り、支援に繋がります。

問 「第3次半田市男女共同参画推進計画」に「生理的貧困」対策について盛り込んでいただきたいと思いますが、いかがですか。

答 本年度策定する計画においては、「生理的貧困」の根深さの認識をふまえ、相談体制の充実に向けた施策に反映します。



市政を問う
一般質問 (質問議員が執筆しています)